



1. モンブラントネル

2. 雨に弱い新幹線

3. World with out Sun

1. アルプスの最高峰 モンブラン を貫ぬいてフランスとイタリアを結ぶモンブラン道路トンネルが、世界注目の中に7月16日開通した。この日の開通式は、ドゴール（フランス）、サラガット（イタリア）両国大統領出席のもとに、フランス側トンネル入口で、その歴史的偉業の完成をたたえる演説をかわした後、イタリア側へ向い盛大にパレードをした。

あまりにも有名なこのトンネルについてはあらゆる雑誌に紹介されているが、その概要はフランス側ペルラン村からモンブランの真下をほとんど一直線にくぐってイタリア側エントレベス村に至る、延長11.6kmの世界最長の道路トンネルであること、断面は2車線のダブルデッキで、上層を交通に、下層を排気などに用いていることなどである。

1953年フランス、イタリア両国政府の合意が成立し、1958年5月着工、両国側から掘削が開始された。1962年8月ついに貫通し、今回開業の運びとなったものである。

このトンネル完成で、ヨーロッパの大動脈であるパリ～ローマ間は短縮され、しかも四季を通じて結ばれることになり、その政治的、経済的影響は非常に大きい。

日本でも近年、北陸トンネル、新丹那トンネルなどつぎつぎに長大トンネルの完成をみているが、さらに本州と北海道を結ぶ海底トンネル「青函トンネル」の試掘坑もいよいよ海底部に到達するなど、ドーバ―海峡の海底トンネルと並んでいよいよ脚光をあびてきた。一日も早く無事に完成することを祈りたい。

[C]

2. 「雨に弱い新幹線」とか「お急ぎの方は（旧）東海道線を……」とか、このところ新幹線は雨にたたえられっぱなしである。もともと4年の予定工期で着手されたものが、用地買収のおくれから半分程度の工期に短縮され、軌道敷設は1年で全線開通という突貫工事であってみれば、「雨降って地固まる」余裕もなく、加えて去年は「東京砂漠」の寡雨年、今年になって弱点はばく露したこともある程度はやむを得ないことかも知れない。

もっとも、これに似た話は道路や河川工事においても例なしとはしないが、大型土工機械による大量土工の急速施工が可能になった現在、工期に追われて土の締め固めや安定に関する考慮が多少でも軽視される面があるとすれば問題であろう。

もちろん、1年で用地買収を完了すると考えた見通しの甘さも責められるかも知れないが、一方現在の用地取得の困難性を如実に示したものであり、その裏には残り工期でガムシャラに完成にこぎつけた土木技術者の非常な努力と根性に対して敬意が払われるべきであろう。

しかしながら、いつもいつも、突貫工事で完成させること自体に大きな問題がひそんでいるのではなからうか。

[J]

3. 映画/アメリカ・コロンビア作品「太陽のとどこかぬ世界」（原題 World without Sun）が公開され、新聞批評等で好評である。海底開発研究のために海底に基地をつくり、そこで2ヵ月間「地上と変らぬ生活」を送ったフランスの8人の科学者の記録で、コラム子の観たかぎりでもその美しさは快ろよい陶醉につながりみごとであった。

再び新聞批評にもどるが「……学問を進歩させるものは、誠にこうした勇気と想像力。宇宙を泳いできた飛行士のインタビュー記事を読むような楽しさがある。……大人が見ても楽しいが、知識欲を刺激し、真の学問の楽しさを教えてくれる……（朝日新聞・7月2日夕刊）」とある。真の学問の楽しさを知らせることは、より良い後継者の育成に連なる。NHK TV 7月1日 21時20分から30分間放映された科学時代「世界最長のつり橋」も、この意味で目立たぬところに明日のために生きる研究者の姿をとらえて出色であった。願わくば、この比類なき題材をして日本版“World without Sun”をつくらしめるように配慮がなされるように祈るものである。

[E]